

## 5年 わたしの地図活用

地図で調べながら  
原材料の輸入や貿易を学ぶ

東京都 日本女子大学附属豊明小学校 桑原 正孝

## 1 はじめに

第5学年「日本の工業生産」の学習では、工業生産のようすから学習問題を見だし、調査したり、地図や地球儀、統計などの資料を活用したりして調べていく。とくに原材料の輸入や貿易を学ぶ場面では水産業や食料自給率の学習に続き、小学校社会科の学習において世界地誌を扱う貴重な場面の一つである。

しかし工業では、扱う内容によって、農業や水産業の学習以上に児童にとって身近なところから離れるイメージをもたせてしまうこともある。多くの原材料を他国からの輸入に頼っている日本の工業生産を発展させていくには、環境問題やエネルギー問題、他国との関係に目を向けさせていくことが必要で、手元に地図帳を広げ、「私の目の前にある工業製品が世界とつながっている」という実感を持った理解に深めていく時間が欠かせない。

## 2 単元計画例 (22時間)

時間	学習内容
①～④	工業生産と工業地域
⑤～⑫	自動車をつくる工業
⑬～⑰	工業生産を支える技術・運輸
⑱～⑳	これからの工業生産とわたしたち

この単元計画例では、まず、身のまわりにある工業製品を分類する活動を通し、機械、金属、石油化学、食料品などをつくる工業があることを知ることから学習が始まる。実際

に工場の見学に行く前には、どのような原材料を使い、どのような過程で工業製品がつけられていくか想起しにくいものもあるが、水産業の学習のつながりから、身近な食材としてのツナ缶詰をつくる食料品工業などから導入すると児童にも興味をもたせやすい。

## 3 食品ラベルから輸入水産物を見つける

水産物の缶びん詰の2015年の国内生産は1位がまぐろ・かつお類(36,600t)で、2位がさば(32,000t)となっている\*。このデータから、「原料をまぐろ・かつお類とするツナ缶詰をつくる工場はどのような場所に多いだろう」と児童に問いかける。すると、水産業の学習をもとにして、「水揚高の多い銚子港や焼津港の近くではないか」「銚子港よりも焼津港のほうがまぐろやかつおの水揚げが多い」といった考えがあがってくる。

そこで、『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(以下、地図帳)のp.31～32①「中部地方」を見て、静岡県の中かで缶詰やかつおぶしといった水産加工品の記号を探す活動を行う。



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.32①中部地方

続いて、ツナ缶詰の製造工場の動画等を利用し、実際にどのようにつくられているかを調べると、きれいな水が大量に必要であること(地域・環境)や、静岡県の中央に位置し、

東京や名古屋という大消費地に東名高速道路を利用して運べること（運輸），そしてなんといっても遠洋漁業の基地として冷凍保存できる大きな倉庫があることに気づいていくことができる。これら立地の特徴についても地図帳で調べながら学習していくと，自分が普段食べているツナ缶詰がどのようにつくられ，どのように製品として運ばれていくのかも実感を持った理解へと変容させていくことができる。また，遠洋漁業の基地として焼津港からは，旬のまぐろを追いかけて太平洋に漁に出るが，地図帳p.53～54①「アジア・オセアニア」を開きながら，「ミクロネシア」「コーラル海」と調べていくと日本から赤道を越えて行われているツナ缶詰の原材料の確保のスケールが「世界」と結びついていることをより深く理解できるだろう。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.53～54①アジア・オセアニア

#### 4 自動車をつくる工業と世界の結びつき

今回は日本の工業生産の学習の柱となる自動車工業の学習でも地図帳を活用していく場面を設定していくと，工場や工業地帯の立地についてもその地理的条件に目を向けさせることができる。

この学習では自動車の部品をつくる工場があり，またその部品の多くは世界中から輸入した鉄やアルミニウムといった原料をもとにしてつくられていることを学んでいく。地図帳p.71「日本と世界の結びつき②日本のおもな輸入相手国・地域とおもな輸入品」より読み取っていくと「石炭」「鉄鉱石」といった製鉄に必要な原料はおもにオーストラリア，ブラジルから輸入していることを読み取ることができる。ここで地図帳p.53～54①「アジア・オセアニア」を開いてみると，石炭運搬船や鉄石運搬船の絵とともにオーストラリ

アからの海路をたどることができる。児童に指でこの海路をたどらせながら気がついたことをたずねると，「赤道を越えた南半球にあるオーストラリアから原料を輸入している」「そんなにはるばるとどれくらいの日数をかけて日本の港まで運ばれるのだろう」「ブラジルはもっと遠いはずだが，なぜそんな遠い国から輸入しているのだろう」といった疑問があげられる。

#### 5 まとめ

「太平洋ベルト」という言葉は日本の工業生産の特色を端的に表す言葉であるが，地図帳を活用すると，上述の児童の疑問のように発展的な学びにつながる手がかりを児童自身が見いだすことができる。そして，海路で運ばれてきた原料を利用している日本の工業をより実感をもって理解できるようになる。

注\* (公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会 国内生産数量統計より。